

デザイナートークイベントを開催!

7月2日、協力隊の江副佑輔さんがデザイナートークイベント「デザインってなんだ」を町開発総合センター大ホールで開催しました。

町内で関わったデザイン活動を通じて、課題解決の一助につながるデザインの考え方を、パネリストを交えて語りました。

プログラムでは「コロナ禍でのSNS活用」「一言看板」「軽トラ市の復興」「デザインで変わる広報紙」の4つの事例が紹介され、フリートークでは参加者を楽しませた熱いやりとりがありました。

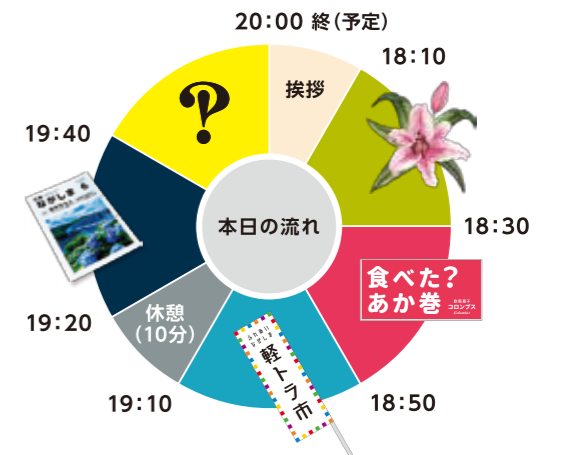
会場では、新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインによるライブ配信も行われました。



参加者に挨拶する江副さん



デザイン=思いやりをカタチにする「一言看板」の事例紹介



発表に耳を傾ける参加者



「コロナ禍でのSNS活用」の事例紹介



イベント会場の様子

江副さんは「デザインの考え方はどんなことにも生かせる。今回のデザイナートークイベントを通じて、皆さんの明日に生かしてもらいたい」と話しました。

2時間を超えるイベントには約20人が参加。ライブ配信やアーカイブ配信でも視聴されました。録画された当日の様子は、動画共有サービスYouTubeで配信しています。

こちらのQRコードから視聴できます。動画はイベント当日のライブ配信映像を編集したのになります。前編・後編になります。



イノシシの追跡調査始まる!

7月13日、協力隊の長谷川一総さんが、野生のイノシシに発信機を装着し、追跡調査を開始しました。

取り付けられた発信機には位置を自動記録するためのGPSが内蔵され、イノシシの行動範囲や活動時間帯、ねぐらといった情報が得られます。

これまでの追跡調査では、GPS発信機の小型化が難しいこと、イノシシには装着しにくい首輪状だったため、シカやクマなど大型哺乳類の調査が多く、イノシシではあまり研究例がありませんでした。



イノシシにGPS発信機を取り付ける様子



使用したGPS発信機

GPS発信機をイノシシに取り付ける動画は、こちらのQRコードから視聴できます。



今回装着したGPS発信機は、小型化に成功したものを採用しました。形状とサイズは、ウシの個体識別タグに似ています。

長谷川さんは「イノシシの活動情報を得て、柵の設置場所や効率的な捕獲への判断材料にしたい」と意気込みを語りました。